そよかぜだより

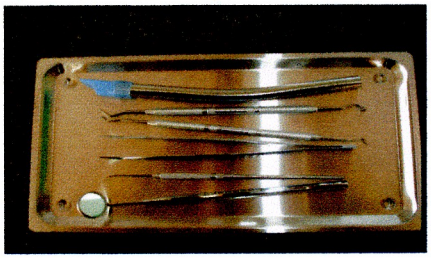
2009
1月号

あけまして
おめでとうございます。

早いもので、開院してから1月9日で、2年がたちました。おかげさまで、たくさんの患者さまに来院していただいています。心より感謝申し上げます。

本年度も、「患者さま一人一人にあったオーダーメードの医療」を目標にし、患者様の歯の健康維持のアドバイスができるよう、スタッフ一同努力していきたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

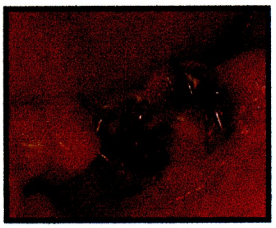


《基本セット》
・毎回の診療時に使用する器具です。
（上から）口の中に溜まった水を吸いとるバキューム、薬や仮のふたを詰めるときに使用する充填器、むし歯でやわらかくなった象牙質を取り除くときに使用するエキスカベータ、ピンセット、細かい作業に使用する探針、ミラーが入っています。
・1回使用ごとに消毒・滅菌しています。

銀歯のはなし

前回までは、小さなむし歯に対して、歯の色に合うレジン樹脂を直接詰める治療法を紹介しました。今回からは比較的広範囲に広がったむし歯や、奥歯などの、直接レジン樹脂を詰めることができない部位に行なう方法である間接修復法について紹介してみましょう。

今回は歯を部分的に歯科用金属で覆う方法について写真にて示します。



上の右の写真は、局所麻酔後にむし歯になっている部分を削除し、歯科用金属が入りやすいように形を整えた状態です。左の写真は、型採りをもとに作製された金属を、専用接着剤で歯にくっつけたものです。この金属は 12%以上金が含まれた金銀パラジウム合金で、一般的に保険治療で用いられます。この合金を熱して歯の形に流し込み（鋳造）作りあげるのが銀歯です。

右上の状態を型採りしたもの（印象採得）と、噛合わせ（咬合採得）をとった状態です。型を採る材料は、海草から抽出されるアルジネート、寒天や合成ゴム（シリコン）などが挙げられます。
噛合わせを採る材料は、ワックスあるいは合成ゴムが一般に用いられます。

院長より

今回は歯を部分的に歯科用金属で覆う方法について紹介しました。この方法は比較的古い時代から行われていた方法です。歯科技工士さんの仕事で最も多いものです。

この技術は、部分的な被せ物だけではなく、全体を被せる冠や、欠損している歯の両隣りの歯を削除し、歯の欠損部を補うブリッジ修復法など広く用いられています。

利点として口の外で（型採りした模型）作製するために、奥歯の細かい形態の再現が可能です。大きなむし歯にも適応できます。

欠点としては歯の削除する量が多いため、歯の切削時に局所麻酔を用いることが多く、処置時間も長いことが挙げられます。さらに金属で修復処置を行う場合には、審美性に問題があります。

近年では、前回紹介した歯の削除が最小限である「歯の色の合成樹脂を詰める方法」や、次回紹介する予定の「型採りをしそこから、合成樹脂や陶材（セラミック）で作製する白い被せ物」が多く開発されたため、歯科技工士さんの仕事内容は変わってきているようです。

防ごう！インフルエンザ！

冬になると流行するインフルエンザは、感染者の唾やくしゃみ、つばなどに含まれるインフルエンザウイルスを、鼻や口から吸い込むことによって感染します。個人レベルでできる対策をして、新型インフルエンザに備えましょう！

① 手洗い・うがい…水とせっけんで15秒以上洗う。洗った後は水分を充分に拭き取る。

②マスクの着用…ウイルスが付いている場合があるため、なるべく触れない。感染を防ぐため、1日1枚の使い捨てにする。

③エアコンのフィルター掃除をする。（ウイルスがフィルターに付着しやすい）